

直前早慶大英語

【2 回目】



問題

【1】

解答

- (1) e (2) $h \rightarrow g \rightarrow a \rightarrow d \rightarrow f \rightarrow b$ (3) $b \rightarrow a \rightarrow d \rightarrow c$ (4) b
(5) c (6) b (7) b (8) c

全訳

「肯定的陳述」は概念を結び付け、「否定的陳述」は概念の結び付きを断つ。「全否定陳述」(例えば「どの哲学者も絶対正しくはない」)は概念の結び付きを完全に断つ。「部分的否定陳述」(例えば「ノースダコタ州の人間の一部はディケンズの小説を読まない」)は概念の結び付きを不完全に断つ。

ある陳述が肯定できるとか否定し得るとか言う時、我々は単にそれが真実か偽りのどちらかであり得ると言っているだけにすぎない。つまり、陳述の否定とは、単にそれが偽りであると宣言することなのだ。陳述は、それが肯定のものか否定のものに関係なく、偽りであり得る。(論理言語で、陳述の「質」のことを語る時、我々はそれが肯定か否定かということを行っている。)[「ハーマン・メルヴィルがアメリカ合衆国の大統領だったことはない」というのは正しく、「『白鯨』は鯨についての話ではない」は間違いである。

否定的陳述は時として人を惑わすことがあるので、これを使う時には、それが間違いなく我々がそれに言わせようとしていることを実際に言っているかを、注意して確かめなくてはいけない。次の陳述を考えてみよう。“All dogs are not mongrels.”我々は普遍性を表す“all”と、否定を示す“not”に着目し、ここにあるのは全否定陳述だと、すぐにも思いたくなるかもしれない。実際には、これは部分的否定陳述なのだ。全否定陳述では、主語と述語の間に完全な分断がなされるのだが、それはこの構文の中で起きているものではない。この陳述の否定的メッセージの鍵は“not all”という語句で表すことができる。“Not all”(あるいは“not every”)は、“none”と同じことを意味するのではなく、それは“some”と言い換えることができるのだ。この陳述の述語(“mongrels”)は、主語(“dog”)が表す分類の全体からではなく、そのほんの一部からしか切り離されていない。つまり、この陳述が言おうとしているのは、「犬の一部は雑種ではない」ということなのだ。

すべての条件が同じとして、もし同じことが肯定表現でも否定表現でも伝えられ得るならば、肯定的構文を選ぶ方がよい。次の2つの陳述を考えてみよう。「学生の一部は勤勉だ」と、「学生の一部は勤勉ではない」だ。厳密に論理的な見地からすると、この2つの陳述は、主語と述語の部分的な分離をするという、同じことをしている。だが、この2つの陳述には微妙な違いがある。肯定陳述の方がより直接的で、より強調的である。(このことはすべての肯定陳述に当てはまる。)これは、その力点が、そうでは「ない」ものよりも、そうで「ある」ものに置かれているので、肯定的な反応を引き出すのだ。否定陳述は、そうでないものを強調することによって、そこで描かれつつある状況への我々の否定的な思考を促す。

否定陳述は、間違っている陳述を修正する返答として有効的に使えることがある。「どの芸術家も神経質なわけではない」と、「芸術家なら誰でも神経質なわけではない」はどちらも、「芸術家は誰でも神経質だ」という、すべてを一緒くたにした主張への適切な応答である。

論理的な話の中では、明瞭さが常に第一に考慮すべきことだが、我々は肯定のメッセージを伝えることを意図した陳述の中に否定的要素を組み入れて、混乱の生じる可能性を生み出してしまふことがある。「罰金を科すことは公正でないことはない」は、「罰金を科すことは公正なことだ」と同じようなことを意味するが、その言わんとすることは、1つ目の陳述よりも2つ目の陳述の方が、より明瞭かつ直接的に伝わる。

だが、我々は言葉の論理性を考慮するあまり、否定を使った遠まわしな表現の入る余地を与えないほど頑なになりたくはない。「それは愚かな決断だった」というのは、明瞭な言い方だが、やや率直さが過ぎもする。友好的な人間関係という大義のためには、「あるいはその決定は、その時に下すことのできた一番賢明な決断ではなかったかもしれない」と言う方が、得られるものは多いかもしれない。だが、ここでは厳密なルールを定めるのは控えた方がよい。我々の使う言葉の率直さの程度は状況に委ねるのがよい。ある種の状況では必要なのだから、率直な言葉を断固として排除する必要はない。

【配点】 21 点

- (1) 2点 (2) 4点 (3) 5点 (4) 2点
(5) 2点 (6) 2点 (7) 2点 (8) 2点

【配点の目安】

(2), (3) 部分点なし。すべて正解で与点。

【2】

解答

- (1) ① a ② d ③ c ④ c ⑤ c ⑥ c ⑦ b ⑧ b ⑨ c
(2) d (3) d (4) a (5) e (6) a
(7) 「全訳」の下線部⑩, ⑪参照。

全訳

宗教はいつの世にも人々を惑わせるだけでなく魅了もしてきた。宗教は、19世紀末に人類学と社会学が誕生して以来ほぼずっと、これらの学問分野の主要な研究対象となってきた。宗教の起源を探ろうとする初期の試みは、魔術と宗教との関係を強調する傾向があり、それによると、制度化した宗教や世界宗教（つまり聖職者がいて、組織的構造をもち、神学もしくは哲学の公式の体系を備えたキリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンズー教、仏教のような宗教）は、大部分は魔術（これには病気の治療とか人生の数ある難問の1つを解決するといった特定の目的を達成するために考案されたまじないや儀式が含まれる）に基づいていた祖先の宗教から進化してきたものであると考えられた。こうして宗教は、しばしば、併存する超自然的世界に住む神々のとりなしを通して、物理的世界を理解かつ支配〔もしくは理解または支配〕しようとする試みであるとみなされたのであった。

この宗教観を少し押し進めて、とりわけフロイトはこう述べたのである。宗教的信念は、私たちが世界を理解する手助けになることに加え、必ずしも私たちの幸福や生存を導いてくれるとは言えない世界で、つまり一見無限の情熱をもって、さらには悪意があり懲罰的だと容易に（しかも、実際しばしばそう）解釈しうるような振る舞いをもって、絶えず私たちに飢饉や洪水や暴力を投げつけてくる世界において私たちが遭遇するありとあらゆる不都合な

経験に私たちが打ちのめされないように助ける働きもあるかもしれない、と。宗教とは未来は現在よりもよくなるだろうという希望を与えるものなのだ（これは、マルクスが「(宗教は) 人民のアヘンである」と記憶に残る形で要約し(批判し) た主張である)。

しかし、このような宗教観は伝統的社会（特に狩猟採集の社会）には必ずしもはっきりと魔術的要素と言えるようなものがあつたわけではないという事実を看過している。狩猟採集社会に魔術的要素がないと言おうとしているのではなく（実際、狩猟採集社会にも魔術的要素はある）、この魔術的要素は宗教とまったく切り離されているのが普通だということだ。狩猟採集社会では宗教はしばしばシャーマンの形態をとり、そこでは音楽、舞踏、ときには向精神性の物質がトランス状態をもたらすために使用され、この状態の中で秘術を受ける者はしばしば案内人の霊と一緒に超自然的世界へ入って行くのである。

20 世紀の初頭、近代社会学の創始者の 1 人であるエミール・デュルケームによって別の考え方（これはその後社会学者によって幅広く受け入れられた）が提示された。彼は、宗教は、誰もが加わることができる共通の世界観を提示し、それと同時に集団への帰属意識（それゆえに献身も）を強化することによって社会の構造と統合を強めることを主な目的としている、と主張した。マルクス主義者たちは、これとはやや異なった解釈を支持する議論を展開し、宗教（少なくとも制度化した形態の宗教では）は、すべての人を従わせることによって社会全体への支配力を及ぼそうとする社会内部の党派（この場合は社会階級）による試みであると述べた。

しかし、宗教にはもっと直接的な恩恵があるかもしれない。例えば、無信心な人と比べると、信仰心が厚い人はあまり病気にかからず、精神医学的な問題も少なく、病気だけでなく外科手術からの回復も早く、より満ち足りていて、一般には人生の経験に対しより積極的な態度をもっていることを示す社会的、心理学的な証拠がかなり存在するのである。この点に関連して述べれば、治療（特に、伝統的な治療者や明らかに宗教的な治療者による治療）の効能を信じることは治療が成功する根本的に重要な要素であること（プラシーボ効果）が昔から認められてきている。これらの説明にはすべてメリットがあるかもしれないが（ひょっとしたら、すべて真実とまで言えるかもしれない）、進化論的な見方からすると、最大の難問であるに違いない問題、つまり人間はどうやらこの種の誘い込みに非常に乗りやすいという事実には何も答えていないのである。他のすべての条件が同じなら、どんな生き物も、宗教に結びつけられて考えられているように思われるさまざまなレベルの社会的適応に威圧して誘い込もうとする試みには抵抗すると思つてよいだろう。⑩朝になって冷静に思い返せば、まったく不合理な、さらには信じがたいと思われるような信念や約束に私たちを同調させるのに使われるほど魅力的にするといった何が、宗教的信念や儀式にはあるのか。著述家の中には、この現象にあまりにも困惑して、宗教は単なる「偶発症状」にすぎないと述べている者がいる。つまり、他のもの（大きな脳をもっているというような）がもたらした非適応的（さらには、多分、不適応な）副産物だと言うのだ。しかし、この見解は進化論的には意味をなさない。⑪宗教ほど大きな犠牲を払うものはどんなものでも、重要な適応的利点をもっている「はずであり」、さもなくば宗教を下支えしている認知のメカニズムは厳しく進化の過程で除外されるであろう。

【配点】 25 点

- (1) 9 点 (各 1 点) (2) 1 点 (3) 1 点 (4) 1 点 (5) 1 点
(6) 1 点 (7) ⑩ 6 点 ⑪ 5 点

【配点の目安】

(7)

- ⑩ 以下のように 2 つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は 1 件につき 1 点減点とし、区分を超えて減点はしない。

① What is it about religious beliefs and rituals that makes them so attractive that they can be used to persuade and cajole us into signing up to beliefs and commitments (3 点)

is it ~ that … が強調構文だとわかっていないもの - 2 点

make O (= religious beliefs and rituals) C (= so attractive that ~ commitments) の文型を理解できていないもの - 2 点

so ~ that … 構文を訳出できていないもの - 2 点

② that seem quite unreasonable — implausible, even — in the cold light of day? (3 点)

that seem quite ~ light of day が beliefs and commitments を修飾する形で訳出できていないもの - 2 点

— implausible, even — の解釈を誤っているもの - 1 点

- ⑪ 以下のように 2 つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は 1 件につき 1 点減点とし、区分を超えて減点はしない。

① anything as costly as religion *must* convey a significant adaptive advantage (2 点)

as costly as religion が anything を修飾していることがわかっていないもの - 2 点

② or the cognitive mechanisms that underpin it would be heavily selected against (3 点)

or を「さもなければ」の意味ではなく、「あるいは」や「つまり」と解釈したもの

- 2 点

that underpin it が関係詞節だとわかっていないもの - 2 点

would を仮定法過去として訳出できていないもの - 1 点

【3】

解答

(1) ① c ② a ③ c ④ b ⑤ a ⑥ a ⑦ a ⑧ c ⑨ c ⑩ a

⑪ b ⑫ b ⑬ a ⑭ c ⑮ c ⑯ a ⑰ b ⑱ b ⑲ a ⑳ b

(2) ㉑ b ㉒ c ㉓ a ㉔ c ㉕ d ㉖ b ㉗ b

(3) 「全訳」の下線部 (X) 参照。

全訳

あなたが英語を話す最後のネイティブであるときちょっと想像してみよう。あなたの知っている他の人は誰も英語を話さない。誰も決して英語で話しかけてこないだろうから、あなたの子供に英語を教える意義も見出せない。あなたが感じることになる喪失感も想像してみよう。翻訳不可能な英語による観念、例えば、a stiff upper lip (不屈の精神)、a stitch in time (転ばぬ先の杖)、a New York minute (ほんの短時間)などはすべて消えてなくなるだろう。誰も二度と「めえめえ黒羊さん」や「バラの輪作ろう」を絶対に歌わなくなるだろう。歴史や文化、集合記憶についての微妙な手掛かりがすべてなくなってしまうだろう。

世界には約 6,000 の生きた言語がある。そして少なくともそのうちの半分が現在重大な脅威にさらされている。世界のあらゆる地域で言語が消滅しつつあるのだ。実際、ある科学者は、言語は鳥や哺乳動物よりも大きな絶滅の危機に直面していると言っている。イースト・アングリア大学のスティーブ・サザーランド教授は、過去 500 年間に、鳥の 1.3 パーセント、哺乳動物の 1.9 パーセントに比し、言語は 4.5 パーセントが死滅したと計算している。

約 300 の言語には話し手が 100 万人以上いる。これらの言語は健全な言語である。例えば、標準中国語、英語、スペイン語は最も広範囲に話されている言語である。主要な 10 の言語は世界のほぼ半分の人々の母語になっている。しかし、世界の言語の中位の大きさはわずか 6,000 である。だから、世界の言語の半分はその数か、それ以上少ない人々によって話されている。

言語は、人間の他の多くの表現形式と同じように、生れては消えて行く。そして、何千もの言語がこの世に存在した痕跡をまったく残さずにまさしくその通りのことをしてきた。ごく少数の言語 (バスク語、ギリシャ語、ヘブライ語、ラテン語などがこの中に入る) だけが 2,000 年以上存続し続けてきた。しかし、どうやら言語の消滅のスピードはますます早まっているようなのだ。ユネスコは言語の絶滅の速度は現在 1 年間に 10 言語に達したと主張している。

世界で話されているすべての言語のデータベースを提供しているエスノログは、417 の言語は話し手が極端に少なく絶滅の最終段階に入っていると主張している。カメルーンのルオ語を話す 1 人の現存者、オレゴンのカラスマス語を流暢に話す残りのたった 1 人、スウェーデンとノルウェーのビーテ・サーミ語を話す一握りの人々に思いをはせてほしい。

かつては言語は孤立した狭い地域で栄えていたけれども、現在ではほとんどの人が世界の別の地域と絶えず接触をしている。国際的に認められた言語を話すことは、この接触がもたらす機会を最大限に活用したいと思っている人々にとっては明白な利点なのである。こうしてやがては、人々は自分の子供が母国語を学習していないということに気づかなくなることもあるかもしれない。

言語は移住が原因で失われることもある。例えば、人々が田舎の共同体から都会の中心地に出てくる場合とか、石油探査や木材の伐採によって環境が破壊され移住する場合などがそ

うである。自然災害も、特定の地域の住民にだけでなく、その言語にも、重大な被害をもたらすことがある。例えば、インドネシアのマルク諸島のパウロヒ語の話者たちがそうであるが、50人を除いてすべての住民が地震と津波で亡くなってしまったのだ。

言語の消滅には政府に責任があるケースもある。国が子供を教育し、政治を行い、用務を果たすための「公用語」を確立する必要性を感じたために、多くの小さな言語が壊滅的な影響を受けた。1970年代までオーストラリアのアボリジニは自分たちの言語（かつてはその数は400以上あった）で話すことを禁じられていた。「世界消滅危機言語地図」によると、今も普通に話されているアボリジニの言語は約25しかないとのことだ。

言語が失われると何が失われるのか。次のように主張する人もいる。みんなが意思の疎通ができることは大切なことだから、言語が消滅していくことは人類の漸進的進化の1つの兆候にすぎず、言語の均質性の増大は進化の副作用にすぎない、と。世界中のすべての人が同じ言語を話すなら明らかに大きなメリットがある。一部の産業ではすでにこのことが現れていて、例えば、英語はパイロットや航空管制官にとって必須の言語になっている。しかし、単なる便宜よりもはるかに多くの事柄が危うくなっている。言語が失われると、すべての生活様式や知識の体系が言語と一緒に失われてしまうかもしれない。複雑な宗教的・社会的儀式は消滅し、口述による歴史も語り継ぐことがなくなるために消えてしまうだろう。何世代も通して集められた動植物や環境についての情報は後世にまったく伝えられなくなるかもしれない。そして、人間の創意工夫の豊かさや身の回りで見たことについて話すという類のない才能は、言語がなくなればそれだけ貧弱なものになるだろう。

簡単に言うなら、言語はアイデンティティ、つまり世界における私たちの居場所について何かを表しているのだ。ニュージーランドのノースアイランドでマオリ語の先生をしているアーニー・ラウヒビが「自分の言語を話さないで成長するなら、人は自分が誰なのかわからなくなるだろう」と要約している。

アイデンティティと自分の過去へのつながりの感覚が必要であることがマオリ語の復活にあたっての重大な要素であった。マオリ語はニュージーランドの原住民の言語で、ヨーロッパの入植者が来るまではニュージーランドで話されていた支配的言語だった。しかし、20世紀の初頭まで子供たちは学校でマオリ語を話すと罰せられ、マオリ語を教える学校はほとんどなかった。1980年代までには、ネイティブスピーカーとみなせるほどマオリ語を知っているマオリ族の人は20パーセント以下に減り、都会化したマオリ族の多くの人々はまったく自分たちの言語や文化と接触することがなくなってしまった。今はニュージーランドのマオリ族の4人に1人がマオリ語を話し、就学前の児童の約40パーセントがマオリ語漬けの学校に入学する。マオリ語は公用語にもなっている。

死んだと思われていた言語が蘇って勢力的で活動的な言語なることもありうる。ヘブライ語は西暦200年頃には話し言葉としては使用されなくなったが、「聖なる言語」としてユダヤ人によって使われ続けた。19世紀の後半、エリエゼル・ベン＝ジェヒューダが率いるリバイバル運動は、ユダヤ人に共通語を提供するためにヘブライ語を話し言葉として確立することを目的とした。新しい言語はシオニズム運動の重要な要素になったが、それはユダヤ人が母国に戻ったときに共通の言語を持てるようにするためだった。ベン＝ジェヒューダは何千という新語を作り、家庭や学校でヘブライ語を率先して使った。現在では、ヘブライ語は500

万人以上の人々によって話されているが、これはイスラエルの人口の 81 パーセントに当たる。

(X) どうやら世界は何を失おうとしているのか気づき始めたようだ。ユネスコは現在積極的に、多言語主義を押し進め、伝統的な記念碑や国立公園だけでなく無形の文化遺産を守る必要性を強調している。ユネスコの言語部門の長であるジョセフ・ポスは、私たちはみな、母国語、「隣」国語、国際語を話すべきだと、「3カ国語主義」の必要性を語っている。危機に瀕している言語を学校で教えることだけでも救済制度を作ることにつながると、彼は言う。

ごく少数の話者しか残っていない言語の場合はもう手遅れかもしれない。おそらく、話者たちは老人になっていて、母語はめったに話さず、かつて知っていた言葉の多くを忘れてしまっているだろう。しかし、これらの言語の価値がやっと認められつつあるようであり、そのことが消滅の潮流を押し留める最初の一步になるだろう。

【配点】 29 点

(1) 20 点 (各 1 点) (2) 7 点 (各 1 点) (3) 2 点

【配点の目安】

(3) It seems the world may be starting to realize what it is about to lose (2 点)

It seems … (…のようだ) の訳脱 - 1 点

what it (= the world) is about to lose を「世界が何を失おうとしているか〔世界が失おうとしているものは何であるか〕」と解釈できていないもの - 1 点

【4】

解答

- (1) d (2) h (3) c (4) a (5) l (6) k
(7) d (8) d (9) g (10) g (11) h (12) h
(13) h (14) h (15) i

解説

a alter [ɔ:lter] 「変える；変わる」

b alters … a の三人称単数現在形

c altered … a の過去形

d alternate

[A] *adj.* [ɔ:ltərnət] 「(2 種のものが) 交互の；1 つおきの」

[B] *n.* [ɔ:ltərnət] 「代理人；補欠」

[C] *v.* [ɔ:ltərnèt] 「～を交替にする；交互に起こる」

e alternates … d [C] の三人称単数現在形

f alternated … d [C] の過去形

g alternately [ɔ:ltərnətli] 「互い違いに；代わる代わる」

Ex. The tide rises and falls *alternately*. (潮は満ちたり引いたりする。)

h alternative [ɔ:ltə:rnətiv]

[A] *adj.* ① 「2 者択一の」 ② 「他に代わるべき」

[B] *n.* ① 「2 者択一」 ② 「他にとるべき手段」

i alternatively [ɔ:ltə:rnətivli] 「(承諾するか) あるいは (otherwise)；またその代わりに (instead)」

j alternations < alternation [ɔːltəːrneɪʃən] 「交互（にすること）；（2者間の）交替」

※ 3者以上の交替は rotation。

k altercations < altercation [ɔːltəːrkeɪʃən] 「口論；論争」

l alterations < alteration [ɔːltəːrɛɪʃən] 「変更；修正」

- (1) 「もしあなたが行けないのなら、代理人を送って下さい。」
○ **d** **B** : alternate
- (2) 「イギリスの朝食の最初は、フルーツジュースかシリアルของいずれかで始まる。」
○ **h** **B** : alternative
- (3) 「当時、アメリカやアジアからの新しい食べ物はヨーロッパの国々の運命を変えた。」
○ **c** : altered
○ then があるので過去時制。
- (4) 「非常に離れた星からの信号をもっとよく理解することができれば、宇宙の法則に関する我々の考え方は変わるかもしれない。」
○ **a** : alter
○ may に続くので原形。
- (5) 「我々はデザインを若干変えなくてはならない。」
○ **l** : alterations
○ make alterations of ~ 「～を変える」
- (6) 「一見してどうでもよいことに思えること——例えば男子の髪の毛の長さとか、女子が学校に指輪をしてくるといったこと——が、家庭と学校との間での激しい口論を引き起こすのだ。」
○ **k** : altercations
- (7) 「NWAの総会は1カ月おきに行われている。」
○ **d** **A** : alternate
- (8) 「イギリスの天気は、数時間のうちに大雨から晴天へと交互に変わることがある。」
○ **d** **C** : alternate
- (9) 「卓越しているサッカー選手は、左右の足を交互に使ってボールを動かすことができる。」
○ **g** : alternately
- (10) 「その女優は、陽気になったかと思うと、憂鬱になることの繰り返しである。」
○ **g** : alternately
- (11) 「そのホテルは満室だったので、我々は他に代わりのホテルの手配をしなくてはならなかった。」
○ **h** **A** : alternative
- (12) 「このやり方が気に入らないのなら、私に他のやり方があるのか。」
○ **h** **A** : alternative
- (13) 「一生懸命働くか、怠惰な生活を送るか、いずれかの道を選ばなくてはならない。」
○ **h** **B** : alternative
- (14) 「彼の唯一の選択肢は、我々の給料を上げることだ。」

○ h [B] : alternative

(15) 「僕は、僕たちは家にいようと思っていたんだ。その代わりに、映画に行ってもいいね。」

○ i : alternatively

○ 文修飾副詞

○ 別の提案を切り出す際に用いる。

【配点】 15 点（各 1 点）

【5】

解答例

I was not cheerful by nature. But now, I enjoy my life more each year. This may be partly due to the sense of relief that comes from having found out the things I craved [wanted] most, and gradually obtaining most of them.

【配点】 10 点

【配点の目安】

以下のように 3 つの区分を設定する。区分を超えて減点はしない。

① 「これは、～という安心感から来る部分もあるのだろう」 (4 点)

② 「自分が最も欲していたものが何たるかを見出し」 (3 点)

③ 「そういったものの多くをだんだんと自分のものにしていった」 (3 点)

文構造の誤り 各パート - 2 点

単語のつづりの誤り 各 - 1 点

文法・語法の誤り 各 - 1 点



会員番号

氏 名